

令和4年 第14回

仙北市教育委員会定例会会議録

令和4年9月29日

仙北市教育委員会

令和4年 第14回 仙北市教育委員会定例会会議録

1 開会宣言 令和4年9月29日（木） 午後2時

2 場 所 西木総合開発センター 2階 農林研修室

3 出席委員

教育長	須田 喬
教育長職務代理者	坂本 佐穂
委員	橋本 勲
委員	細川 伸也
委員	田口 桂一郎

4 出席した事務局職員

教育部長	藤村 幸子
教育次長兼学校教育課長	鈴木 徹
教育次長兼角館公民館長	佐々木 信介
教育総務課長	湯澤 満
学校適正配置準備室長	若松 正輝
学校適正配置準備室参事	毛利 俊介
北浦教育文化研究所長	門脇 貴一郎
総合給食センター所長	草薨 直子
生涯学習課長	武藤 寛幸
中央公民館長	高橋 良宣
田沢湖公民館長	大石 基
市民会館長	信田 昌史
田沢湖図書館長	真崎 智明
学習資料館・イベント交流館長	松橋 幸太郎
平福記念美術館参事	高橋 百合子

5 議事

(1) 報告事項

報告第23号 仙北市議会一般質問について

報告第24号 仙北市教育委員会事務事業点検評価実施要綱の一部を改正する要綱制定
について

6 審議の経過及び結果

(須田教育長)

ただいまから、令和4年第14回仙北市教育委員会9月定例会を開催いたします。

それでは、本定例会の出席委員、職員を紹介します。

－出席委員、職員を紹介－

会議書記には齋藤課長補佐と上野課長補佐を任命します。署名員は、私と委員から細川

委員を指名します。前回会議録の承認についてですが、会議が終わりしだい田口委員には署名をいただきたいと思います。

次に教育長挨拶ということですが、まずもって細川委員におかれましては、9月議会の初日に教育委員として再任が承認されました。4年間の任期ですがよろしく願いいたします。

本日は私の方から、3点報告させていただきます。まず1点目が新型コロナウイルスの感染状況です。家庭内感染等で陽性になった子どもたちがたくさん出ております。それに伴い、西明寺小学校ではクラスターが発生しまして29名が陽性者となりました。9月13日から16日まで休校としました。この間、オンラインで健康観察や授業を行っています。現在、仙北市の学校におきましては、学級閉鎖や学年閉鎖になっても学びを保障するという体制が出来上がっております。大体3コマから4コマ程、授業を行っている状況です。

2点目は角館のお祭りについてです。角館小、白岩小、角館中のみならず市内の小中学校から80名ほどの児童生徒が、お囃子や踊り子、曳手として参加しました。近隣の小中学校においては、角館のお祭りに関わるコロナ陽性者は0でした。また白岩小と角館小の家庭内感染者はありましたけれども、陽性者は0でした。これは、ガイドラインにより小学生の安全面を相当考慮していただいたからだと分析しております。角館中学校の感染者はお祭りに関しては数名おりました。来年度もウィズコロナ禍でのお祭りとなるでしょうから、実行委員会には引き続きガイドラインの更なる徹底をお願いしていくつもりです。昨日の実行委員会でもお願いしました。併せて角館地区の小中学校はお祭り後、健康観察期間として白岩小学校と角館中学校は3日、角館小学校は5日間とったわけですが、これによりクラスターの発生を防ぐことができました。成果はあったと思います。来年度は角館地区のみならず多くの参加者を出している小中学校においても計画を変更するなど柔軟な対応をとっていただき、十分健康観察に努めるとともに、クラスターが発生しないように校長会で訴えていくつもりであります。

3点目は学校適正配置についてです。今年度作成する予定の方針に関わるアンケートにつきましては、委員の皆様から丁寧な議論をしていただきました。今日最終案を提案したいと思います。よろしくご検討願います。また本日、来年度の教育委員会内の事業や新規事業について、委員の皆様から意見をお聞きしたいと思いますので、提案の方よろしく願いたいと思います。

次に教育長の報告についてです。

－資料により説明－

今の報告について何かご質問ありますか。よろしいですか。

－質問なし－

それでは審議に入ります。報告事項、報告第23号仙北市議会一般質問について部長お願いします。

(藤村教育部長)

報告第23号仙北市議会一般質問についてご説明いたします。今回の一般質問は西宮三春議員からの2点でありました。

1点目は、小中学校のトイレ環境の早期改善について、西宮議員は実際にすべての学校のトイレを視察され、現況について和式トイレに比べて洋式トイレの不足による子どもたちのトイレ環境への危機感について、市に対して状況把握をしているのかどうか。また老朽化を含めたトイレの悪臭改善や必要なトイレの改修等について、市の計画の有無などについて質問がありました。

2点目は、せんぼくこまくさプラン事業の継続と絶え間ない支援についての質問でした。こちらでも現地の視察と養護の先生からの聞き取りなどされてからのご質問でしたけれども、事業の周知について、また関連して性教育について、事業の継続を要望され、絶え間ない支援とナプキンを個室に配置するという統一を図ることは出来ないのかという質問でございました。

この2つの質問に対して、まずトイレ環境についての答弁です。市として老朽化している校舎の築年数から、子どもたちにも大変不便をおかけしていることを認識していること。現状は各トイレに一か所以上の洋式トイレを設置しているが、来年度以降の計画方針として、各学校のトイレに一つ程度の和式を残し、他は洋式便器にする方針等についてSDGsの観点からも是非実現したいと答弁しております。

せんぼくこまくさプランの周知につきましては、学校報や養護教諭が直接子どもたちに働きかけたり、張り紙をするなど丁寧に周知していることや今後も一層の周知に努めること。性教育については、保健体育科での指導の他に、医者や専門家等を招き講話を聞くなど、性に関する指導を計画的に指導していくことを答弁しております。

最後に絶え間ない支援については、とても大切なことであり事業の継続を予定していること、また各トイレへの統一の配置は難しいかもしれないけれど、困っている子どもたちがとにかく安心して学校生活を送れるよう支援に努めたいと締めくくっております。一般質問の概要は以上となります。

(須田教育長)

部長の方からありましたけれど、市と協議のところ、委員の皆様からは再三にわたってご指摘、ご助言受けておりますトイレについては、市当局についても、来年度から計画的に行っていくというお話をされましたので、来年の当初予算からトイレの洋式化についても計画的に行っていくつもりであります。何かこのことについて、ご質問ご意見ありますか。よろしいでしょうか。

－質問なし－

では、報告第24号仙北市教育委員会事務事業点検評価実施要綱の一部を改正する要綱制定についてお願いします。

(湯澤教育総務課長)

資料の4ページからになりますけれども、要綱の一部改正についてご報告をいたします。5ページの方は改正文となっております、6ページが改正後、改正前の関係する部分の対照表となっております、7ページからは改正後の実施要綱全体の内容となっております。仙北市教育委員会事務事業点検評価実施要綱ということで、こちらの方は法律に基づきまして、前年度実施した事業について、点検及び評価を行うための要綱となっております。今回の一部改正の主な理由といたしましては、6ページをご覧いただきたいと思えます。改正前のところを見ていただきまして、今回の主な内容といたしましては、第2条のところ、平成20年から施行している仙北市行政評価施行要綱に基づいてというところがありましたけれども、当初はこうした内容の要綱になっておりましたけれども、十何年も経ちましたし、基づくものが古くなっておりまして、第2条につきましては下線部分を削除するという内容となっております。次に第4条の部分につきましては、括弧書きになっておりますけれども、(1)、(2)のところをまとめて、改正後、左側ですけれども、第4条の1項としてまとめて書いております。次に改正前の第4条の(3)、(4)の二つの部分を改正後においては、第2項としてまとめて改正をさせていただいたところがございます。最後に8ページの一番下をご覧いただきたいと思えます。こちらの方は、令和4年9月1日から施行ということで、改正をさせていただいて、現在、前年度実施した事業

について教育委員会事務局の方で、今、点検評価の作業を行っているところです。来月の教育委員会定例会におきましては、昨年度同様に今行われている点検評価の報告書案を委員の皆様提案させていただきますので、併せてよろしくお願ひしたいと思います。要綱の改正については、以上です。

(須田教育長)

これについて何か、ご質問ご意見ありますか。よろしいでしょうか。

－質問、意見なし－

では、その他に入ります。令和5年度の当初予算ということですがけれども、昨年度も委員の皆様からいろいろなご意見等受けまして、例えば、坂本委員からは、LGBTQにつきましては、11月に講演会を企画しておりますし、制服の検討を今しているところがあります。また、橋本委員からご指導のありました、検木内小中学校と各校とのオンラインによる授業につきましては、昨年度もやりましたし、今2回目の会を行う予定であります。委員の皆様からご指摘のありました洋式のトイレにつきましては、2年掛かりましたけれども、来年度できそうであります。ということで、なかなか財政が厳しいようですので、全部できるとは限らないわけですが、今お話しを聞いておかないと、当初予算の方に盛り込めませんので、田口委員の方からご提案していただければと思います。お願いいたします。

(田口委員)

いろいろ考えてきてはおりますけれども、厳しい財政の中で、考えてきた思いつきのようなことを簡単には話せないなと思ひまして、慎重に考えてきたわけですが、まず私が一番、新年度予算の方で考慮していただきたいのは、第1はトイレの洋式化でした。年次計画で来年度から実施できるということで大変良かったと思ひますが、やっぱり回って見ていて、神代中学校や生保内小学校の老朽化した学校のトイレが著しいと思ひています。そういったトイレを重点的に、早期に改善できるように取り組んでいただければありがたいなと思ひています。年次計画で一度に全部ということは、なかなか難しいと思ひますけれども、どうかよろしくお願ひしたいと思います。またトイレはもちろんですけれども、やっぱり安心安全が優先だと思ひます。学校は何よりも命を守ることが最優先ですので、安心安全に関わる補修についての要望が各学校から出された場合は、当初予算分ならず、随時ですね、安全のための補修等を実施していただければありがたいと思ひます。

2点目ですが、ヤマメ・サクラマスプラン、大変素晴らしいプランで、様々な視点での展開がこれから期待されるわけですが、これに基づく年次計画に沿った、優先事項が計画的に実施できるように予算を配置してほしいなど。やはり予算がないとできないものもあるかと思ひます。この中で特に期待しているのは、やはりキャリア教育推進のための地域社会、会社あるいは民間との連携ということが、当然職場体験等踏まえて必要になってくると思ひます。様々な先輩方のふるさとに根付くための努力、あるいはそこまでになった経緯等を調査研究しながら自分の生き方と併せて考えていくという学習が展開されることが期待されるわけですが、そうした学習を展開していくことで会社との連携を深めるためには、それなりの学校任せではなくて、コーディネートする人材が必要ではないかと思ひます。かつては、文部科学省の指定校として生保内地区でそうした事業が展開された記憶があるわけですが、全て窓口は教頭先生でした。通常の日常業務の他にそうした業務を担当しながら、連絡調整をするという業務になって大変苦労しましたし、その事業が終わって教頭先生が代わったら、その事業がなくなってしまうという、根付くことはありませんでした。やはり根付いて継続的に実施されて、はじめて成果

が上がるものだと思いますので、そうした意味合いも込めて、市として力を入れて、10年後、20年後にその成果を出すためにも、継続した事業を展開するために、学校に難儀かけるのではなくて、やはりそれなりの人材を確保して、窓口を設置して推進できるような予算配置をしていただければありがたいというふうに考えています。ただ、人を配置するというのはそれなりに予算規模も大きくなりますので、簡単にはいかないと思いますけれども、あくまでも、学校の職場をこれ以上、ブラックにさせないということが今、社会現象として話題になっていますので、学校現場にこれ以上負担をかけないためにも、これからのヤマメ・サクラマスプランを推進していく際に様々な面での人材確保をお願いしたいと思います。

3点目ですけれども、今日の新聞にも県議会の方で話題になった話も載っておりましたけれども、ICT教育の推進のための先生方の質的向上についてでございます。これは県や国でも考えてそうした研修制度を設けながら、先生方の研修の機会を多くしていくと思っておりますけれども、かなり予算配置をして、子どもたちにパソコンが行き渡りました。学校にも行き渡りましたし、様々なソフトも充実してきました。しかしそれを使うのは、指導するのは先生方でございます。先生方の資質が向上しない限り、子どもたちにどうそれを使わせて授業に活用していくか、十分な良さを先生方に周知しながら、使い方についての研修を深めていくことが必須だろうということは、前々から申し上げていることですが、そうした研修の機会を市単独でも設けて、ただ使ったやっただけでなくて、使い方、利用の仕方、授業への活用のタイミング、やはり効果のある使い方というのがあると思っておりますので、そうした研修の充実、人材育成を図っていただきたいということでございます。そのための、可能な限りで結構ですけれども、研修の機会の確保、学校訪問等での授業研修の機会を推進していきなり、限られた財政の中での研修の充実をお願いしたいと思います。以上です。

(須田教育長)

最初の洋式化について、現時点で考えていることありましたら、次長の方から説明していただければと思います。

(鈴木教育次長兼学校教育課長)

国の補助を今検討しております。更には来年度になりますけれどもコロナに対する補助金がまた今年のように付くようであれば、それも活用して暫時、計画的にやっていきたいと思っております。

(須田教育長)

ヤマメ・サクラマスプランについては、来週も北浦の所長の方から提案があるわけですが、昨日、市長・副市長との協議の中で出た内容を、掻い摘まんで部長の方から説明していただけますか。

(藤村教育部長)

中学生職業講座の他にも、学校の子どもさん向けの企業の紹介とか、そこで働く人材の紹介など、冊子を作る予算などについても、先日、市長・副市長にも相談してきました。美郷町で作った冊子を見ていただいたら、とても素晴らしいなど。また、それ以外にも、子ども議会で、仙北市の子どもたちが、仙北市にいろいろなご提案していただく場面がありますけれども、それにどれくらいの規模の提案をまとめても良いのか、予算規模についてもご相談したところ、1千万位でも子どもたちにはお金をかけていくべきだといった前向きな発言をいただいたところ。令和5年度に向けては、若者が集まるeスポーツ等、いろんな事業があるわけですが、ヤマメ・サクラマス事業については、本当に全面的に、市当局としても取り組んでいただける発言をいただいたところで。

(須田教育長)

I C Tの質的向上ということで、今年度の授業研修等の充実について、北浦の所長の方からお願いします。

(門脇北浦教育文化研究所長)

I C Tの研修に関しては、昨年度からやはり先生方のフォローをしていかなければいけないということで、2方面から行っております。

1方面は、機械の使い方そのものであります。やはり、リテラシーがないと使っていきませんので、昨年度は、東北I T B O O K、今年度はアイネックスさんの方にそこら辺をサポートしてもらう研修の方を行っていただいております。もう一つは、先ほど田口委員の方からお話のありました、どの場面でどう活用できるかというようなことについては、専門官が仙北市に配置されておりますので、その教育専門官の方から、こんな活用の仕方が出来るというようなことを提示授業の方をしていただいております。この前は9月26日、次は10月14日、両方とも西明寺小学校の方で行って、市の研修の方を牽引していただいております。以上であります。

(須田教育長)

次に橋本委員からお願いします。

(橋本委員)

ダブリますけれども、一般質問にあった小中学校のトイレ環境については、計画的に進めていただきたいと思えます。

私は、今年も新聞のことなんですけれども、学校訪問の時、生徒が記事を切り抜いて、それについて他の生徒がいろいろな意見を言うという、様々な取り組みが見られました。また生保内中学校では、県のN I E (教育に新聞を)の推進協議会の実践校にも指定されています。新聞を読むことで読解力の向上にも役立つというふうに言われておりますので、来年度も新聞活用教育推進事業に予算措置をお願いしたいと思います。実際の活動として、秋田魁新報社のN I E担当者を講師にして、切り抜き新聞の講習会とか、新聞の特徴を学ぶ講習会を開催している学校もあるようでした。

二つ目は、オンライン学習環境についてですけれども、コロナの影響でオンラインでの健康観察、授業が行われております。文科省では来年度から、不登校の児童生徒が自宅からオンラインで、スクールカウンセラーとかソーシャルワーカーに日頃の悩みを相談できる体制を整備するということが報道されておりました。仙北市ではオンラインの環境が、前のアンケートではまだ8%くらい家庭で整備がされていないということがありましたので、そういういろんな場面で仙北市の児童生徒が、恒常的に使えるような環境を整備していただきたいというふうに思えます。通信費の負担など、なかなか難しい点もあるかと思えますけれども、出来るだけ家庭の負担の少ない方法で考えていただければありがたいと思えます。

三つ目、学校や公共施設内にある樹木の点検をしていただきたいということですが、他県の事例でしたけれども、学校の敷地で草刈りをしていた校長先生が、枝が落ちてきて死亡するという事故がありました。それぞれの学校や施設で点検されていると思えますけれども、今一度点検して、もし危険だなというふうに判断されるものがありましたら、業者等頼んで改善できるように、安全な環境を作っていただきたいと思えます。

四つ目、個別の対応ですが、学校訪問の時、生保内小学校でトイレ内の壁、臭い、床のもり上がり等、先生からお話がありましたので、出来るだけ早期に改修していただければ、ありがたいなと思えます。昨年度要望した件につきましては、早速対応していただき、ありがとうございました。以上です。

(須田教育長)

新聞の件では、次長の方から西明寺中学校の今年度の取り組みとか教えていただければ、ありがたいです。

(鈴木教育次長兼学校教育課長)

実は新聞の場合、新聞立といいますかそういうのがあれば、非常に見やすくいいなと思っていますが、なかなか高くて。西明寺中の校務員さんが、自前で台を作ってくれまして、西明寺中では、しっかり新聞を開けるような台になっておりました。予算はなかなかつかないのですが、自前で出来るところは頑張ってもらっているところです。

(須田教育長)

三つ目のオンライン授業の通信費について、来年度の予算について何かありましたらお願いします。

(鈴木教育次長兼学校教育課長)

就学援助の項目に、オンライン通信費ということで、なかなか経済的に不安定な家庭にはオンライン通信費を是非付けるように努力していきたいと思います。

(須田教育長)

先ほど、出ました公共施設の点検ということですがけれども、教育長自らこんなことをいうのはあれなんですけれども、すごいなと思っているのは、学校から電話がかかってくれば、すぐ行く体制が整っていて、本当に学校の校長先生たちからは、ありがたいということを受けております。来年度も是非この体制を整えていきたいと思っています。生保内小については、次長の方からどのようにして整備しているのか、していくのかについて報告していただければありがたいです。

(鈴木教育次長兼学校教育課長)

生保内小の老朽化は見てのとおりでして、トイレのタイルの壁が、はがれそうな状態でした。それで、今工事をして、まず一旦タイルは外しております。ただし、それも生保内小のPTAの保護者がボランティアという形で行ってくれています。それから角館中にポプラ並木がありますけれども、非常にすかすかしているということで、明日、桜担当の黒坂樹木医さんが点検してくれます。もしかしてそれが、早急に切らなければならないとなった場合、こちらも保護者の方々が動いてくれるということで、予算がないことも保護者の方よくわかってきてまして、それに頼るわけではないのですけれども、本当に地域で何とかしようとする気持ちに今は甘えています、そうならないように少しでも予算を付けていきたいなと思っています。

(須田教育長)

坂本委員お願いします。

(坂本委員)

まずは田口委員、橋本委員と重なりますけれども、トイレの改修については予算が付きましたこと大変ありがたく思います。それに加えてですが、改修の時に同時に、西宮議員さんから提案があったように、こまくさプランの方に関係してくるんですけれども、女子トイレの個室に棚を設置するということを検討していただけないでしょうか。中学校の場合は全ての個室、小学校は高学年あるいは体育館の近くとか、各個室に棚があって、誰でも手を伸ばしやすいようにという仕組みにどの学校もそうなれば、ありがたいなと思います。ただですね、このこまくさプランに関してですが、やはり原則として経済的な問題を抱えている人のためのものであるということを忘れないように、確かに誰でも持って行っているものなので、理想は、トイレトペーパーと同じ扱いになることが理想ではありますけれども、そういった困窮している貧困世帯といったら失礼ですけれども、そういっ

た方向けであるということも子どもたちにしっかり伝えながら、こまきプランを続けていってほしいと思います。個室への棚の設置をご検討いただきたいと思います。

二つ目ですが、LGBTQに関してです。11月に今年度は講演会が実施されるということ、大変ありがたく思っております。まずは市民向けの講座になるということで、これを是非来年度は、学校関係に広めていければいいと考えております。引き続き制服に関しても検討をお願いしたいと思っております。こちらも今年度同様、継続して取り組んでいただきたいと思っております。

三つ目ですが、文化施設を効果的に利用するように促進できないかなと考えました。例えば美術館、新潮社記念館などのギャラリートークなどですね。展示を見に行くだけでなく、そこで何かしら説明があったり、その展示に関する講話があったりすると行きやすくなるように思います。また、興味を引くと思います。ギャラリートークや講演など展示に関するイベント。そろそろコロナもウィズコロナということで、検討いただければと思います。また、例えば、土日、金曜日とか夜少し遅くまで開けておくとか、仕事帰りの人が寄れるようにとかですね、そういったこと。それから公民館の事業としても土日や夜の講座があってもいいのかなと思えました。平日どうしてもいけない方がいらっしやいますので、若い人にも公民館を利用してほしいという考えで、土日や夜の講座を開設したらどうかと思います。それともう一つが市民会館です。7月のイベント大変楽しかったです。また11月もあるようですので、是非これも継続して更に大きくして、市民会館をもっと多くの方に利用していただけるようなそんな取り組みをしていけたらと思えました。以上です。

(須田教育長)

トイレの改修については予算等もかかりますので、また充分検討させていただきたいと思っております。LGBTQの学校の取り組みについてということですがけれども、今年度の動きについて、今のところでお話できればお願いします。

(高橋中央公民館長)

こちらのチラシを見ながらご説明させていただきます。現在のところ11月30日に講演会を予定しております。開場時間、講演時間などは現在、講師を引き受けてくださった塚田院長に、いろいろご相談しているところです。講演につきましては、11月30日、中央公民館、総合開発センターの2階集会室で、リモート講演をお願いしております。今後、内容を踏まえまして講演時間等の決定と、リモート機器の回線と機器の状況等を確認しまして、11月1日の広報等での周知などを考えております。こちらの概要等の裏側に、チラシ的に作成した案ですがけれども、作っております。こちらの方チラシ作成できれば、各課に協力いただいてチラシを置いたり、配布したりということを考えております。現在コロナの対策としまして、人員を何十人としぼった形で予約制の講演という形で検討しておりますけれども、今後の感染状況等踏まえまして、人数等は最後まで検討していきたいと思っております。現在のところ打合せ内容は以上です。よろしく申し上げます。

(須田教育長)

坂本委員の発言からこのような素晴らしい講演会が、たぶん仙北市においてもLGBTQの講演会初めてでしようけれども、私は楽しみにしております。

三つ目の文化施設についてですがけれども、代表して松橋館長をお願いします。

(松橋学習資料館・イベント交流館長)

文学館の方では、今年度は、ギャラリートークの予定は残念ながらありませんが、来年度6月から9月にかけて、絵本作家の方の企画展があります。その中で、この間打合せしたんですが、ギャラリートークあるいはワークショップもしくは両方ということで、ご相

談をかけたところ、なかなかいい感触を得ていますので、どちらかやっていただけるような感じになっております。以上です。

(須田教育長)

11月の市民会館の行事について今のところで、分かることがあったら信田館長お願いします。

(信田市民会館長)

皆さんの方にチラシ配ってありまして、7月のイベントのような形になるかと思います。そちらを見ていただきたいと思います。

日時は、11月3日、文化の日を予定しております。7月にはホールは使わなかったんですけども、今回はホールも使用して行いたいと思っております。内容といたしましては、フリーマーケット、eスポーツの体験と大会、DJ体験教室、映画、キッチンカーとなっております。フリーマーケットとeスポーツ体験につきましては、7月と同様とプラスアルファを考えております。新たなものといたしまして、DJの体験教室、こちらは地域おこし協力隊の岩見谷さんから協力していただきまして、あの方はDJプロフェッショナルの方でして、そちらの技を披露していただき、また実際に体験教室ということで、ターンテーブルに触れていただきまして、興味のある方に、それぞれ教室を開催したいと思っております。その他、ホールの使用といたしまして、映画を予定しております。こちら、9月4日に行った映画試写会におきまして、来場者の方からアンケートを取りまして、その際、再上映の作品ということで、11月3日に映画を予定しております。キッチンカーも前回規模程度のもとなっております。今後、今年度この11月3日の他にもう1回。来年度も、3ヶ月に1回か4ヶ月に1回くらいで、同様のイベント出来るように考えております。もともと7月のイベントについても、市民会館に今まで来ることがなかった人たちに足を運んでほしいというところ、あと芸術文化以外のもので、何か市民会館を活用できないかということを考えてイベント開催しておりますので、今後も、市民会館・図書館を地域の拠点づくりの場として、人の流れ、若い人たちの交流の場として、これからも活用していただけるようにと考えております。以上です。

(須田教育長)

今回、eスポーツに補正かけたんですけども、市長の初めての肝煎りの事業ということでしたけれども、おもしろいなと思ったのは、この前の市民会館の事業で、ポスターをたったの20枚しか貼っていないそうなんです。たったの。しかし300人も集まった。そして、その内の150人がeスポーツを体験したということで、その発信がSNSのFacebookだったということで、いかにその力が、今大きいかということ私たちが分かったところであります。若い人の公民館の利用ということで、昨日から話し合っていることについて、部長の方から情報をお願いいたします。

(藤村部長)

教育委員会及び学校関係の先生も含めて10人ぐらいの若手を集めて、若者のゆるやかな交流を目指した新しい新規講座とか、公民館の新しいメニューの開発を来年度予算の要求に向けて、今検討を始めているところです。ちょうど10月13日に集まっていたいで、グループ班編成をして、ファシリテーターに三浦洋平先生。あとは各公民館の館長などが、オブザーバーとしてその検討会に参加する予定になっております。

(須田教育長)

最後に細川委員お願いします。

(細川委員)

委員の皆様のお話と同じような内容になってしまいますけれども、やはりトイレの改善

が進むということに対して、私もまず安心していきます。築年数が多い神代中学校だったりですと、何としてもトイレが暗いんですね。限られた予算だと思うのですが、室内の暗さも少し改善していただければと思います。生徒たちにとっても先生方にとっても、一番トイレはデリケートなところだと思っておりますので、何卒よろしく願いいたします。以上です。

(須田教育長)

今、ご指摘ご助言があったことについては、また更に部内で検討したいと思います。次にいじめ不登校対策について門脇所長お願いします。

(門脇教育文化研究所長)

8月の報告になります。いじめについて、4月12件、5月16件、6月24件、7月16件、8月は9件でありました。日数が少なかったことも関係しているかと思われます。

次に8月の不登校についてです。小学生3名。中学生11名、計14名となっております。以上、8月のいじめ、不登校の状況であります。

(須田教育長)

何か、ご質問ご意見ありませんか。

－質問なし－

それでは、教育委員会定例会会議録のホームページ公開についてお願いします。

(湯澤教育総務課長)

別冊の7月21日開催の定例会会議録をご覧いただきたいと思います。

－資料により説明－

誤字脱字等ありましたら、私まで教えていただきたいと思います。よろしく願いいたします。以上です。

(須田教育長)

よろしいでしょうか。では、学校適正配置準備室からの報告ということでお願いします。

(若松学校適正配置準備室長)

それでは、学校適正配置準備室からの報告としましては、学校適正配置検討委員会とアンケート調査について、それぞれ報告と確認させていただきたい事項がございます。

まず、学校適正配置検討委員会の関係で報告です。資料、第1回学校適正配置検討委員会会議記録(要旨)をご覧ください。8月29日、第1回検討委員会を開催しまして、委員は18名全員が出席いただきました。今回、初会議ということで、冒頭に委嘱状の交付を行っております。議題の方についてですが、今回は初会議ということで、全体的には事務局からの説明が中心となりました。

議題1では、委員長・副委員長の選出を行い、委員長に鎌田信秋田大学教育文化学部教授が、副委員長に佐藤彰久角館高等学校校長先生が就任しました。

議題2は、現状と課題についての説明で、内容については6月から7月にかけて開催した市民の意見交換会と配付資料も含めて同じ内容でございます。

議題3は、これまでの取り組みについての説明で、平成28年度に学校適正配置研究検討委員会を設置してから、昨年度までに行った取り組みや動きについて説明をいたしました。

議題4は、今年6月から7月にかけて、各小学校体育館で開催した意見交換会の結果について報告をいたしました。

議題5は、今後の進め方についての説明で、目標としまして本年度内に、学校適正配置方針を策定し、令和8年度までに、学校適正配置計画の策定を目指すことを説明し確認を

いたしました。この中で適正配置方針にどのような内容を盛り込むことになるのかというご質問がございました。私の方から現状と課題を掲載し、目指す学校像の基本理念、望ましい学校教育環境、適正な規模配置、配慮すべき事項などを盛り込みたいという説明をさせていただきます。

議題6は、この10月に予定している市民ケートの実施計画について、調査票の内容などに様々なご意見をいただいて検討を行いました。詳しい内容につきましては、後ほどご説明いたします。

今回の会議をとしまして、委員からご意見があった主なものとしましては、今後、意見交換会を開催する場合には、より参加しやすい工夫や、市民に関心を持ってもらう取り組みが必要であるということ。また、適正配置の検討を進めていく上では、子どもの視点を第一に考えていくことの重要性について確認し合ったところがございます。こうした検討委員会の概要につきましては、先の、広報せんぼく9月16日号にも掲載したところでございます。

次に、検討委員会における会議の公開・公表の取扱いについてです。資料をご覧ください。本日、教育委員の皆様からご意見をいただきまして、次回の検討委員会において協議し決定したいと思っております。

言うまでもありませんが、学校適正配置の検討を進めるにあたっては、検討委員会で活発に議論がなされて、その内容を市民に適切に伝え、理解を得ながら進めることが重要と考えております。ただ、この先、具体的な統廃合の検討が必要になった場合には、地域社会や市民生活に大きく影響を与える議題となりますので、場合によっては利害や感情が絡む難しい議論になることも充分考えられます。委員それぞれの立場から自由に発言がなされて、活発に議論をしていただくことを期待していますが、発言者の個人名が公表されることになれば、それによって発言者のプライバシーが害されることが生じたり、そのおそれから活発な議論が行われにくくなったりすることがないとも言えません。そうした事態が生じない対策やルールを講じておくことが必要と考えております。

そこで、一つ目の会議傍聴の取扱いについてですが、①に記載した、説明させていただいたような理由と、②に記載しておりますが、主宰者からの説明や公表に先行して、情報拡散された場合に意図しない形で広がっていったり、市民の不安感や不信感を招いたりするなど、事業推進に悪影響となるおそれも否定できないことから、事務局としては、この会議傍聴については、非公開で行った方がよいのではないかと考えているところです。

二つ目の会議記録の公開・公表の取扱いについては、発言者個人が特定されず、かつ市民に分かりやすく要約した、先ほどの資料の会議録（要旨）という形で、ホームページや広報紙で公表することが、適切でより親切ではないかと考えております。仮に、会議記録詳細版の情報公開請求があった場合には、発言者が特定される情報を除いて対応したいと考えております。

参考までですが、5月に視察を行った県内の自治体例によりますと、会議傍聴に関しては、秋田市が非公表としているようでした。男鹿市、横手市、湯沢市、北秋田市は、要望自体もなく、特に取り決めはしてなかったようです。また、会議記録の公表に関しては、秋田市は個人が特定される情報を伏せて議事録の詳細版をホームページで公開しておりました。その他、男鹿市、湯沢市は会議録を要約した形として、先ほどの会議録の要旨版のような形で公表していたようです。横手市と北秋田市については特に公表を行っていませんでした。

この二つの取扱いにつきまして、ご意見をいただければと思います。よろしく願い致します。

(須田教育長)

田口委員、今の準備室からの案ですけれどもどうでしょうか。

(田口委員)

原案どおりでいいと思います。

(須田教育長)

橋本委員。

(橋本委員)

私も同じです。

(須田教育長)

坂本委員。

(坂本委員)

はい。同じです。

(須田教育長)

細川委員。

(細川委員)

はい。私も同じです。

(須田教育長)

ということで、これを次の委員会の方にかけてしたいと思います。

(若松学校適正配置準備室長)

ありがとうございます。

(須田教育長)

次、お願いします。

(若松学校適正配置準備室長)

続きましてアンケートについて、毛利参事の方から説明いたします。

(毛利学校適正配置準備室参事)

では、行われたアンケート結果の報告と、これから行うアンケート内容の説明をさせていただきます。まずはアンケート結果の報告です。

A3、縦に書かれているもの、二十歳の集いのアンケート結果と角館高校2年生に行ったアンケート結果が並んでおりますが、二十歳の集いの結果は、前回報告しておりますので、高校生のアンケート結果についてご報告させていただきます。まず対象者は179人、その内回答してくれたのは160人でした。回答率は89.38%です。全体の表を見てみると、二十歳の人たちと同じように多様性が一番多く選ばれています。また他の項目を見てみると、粘り強さと地域連携は低いのですけれども、それ以外は10%以内の差となっていて、全体的に選ばれているというところが二十歳の人たちとの違いです。

その下20人未満の単級。多様性は一番多いのですが、特徴として個別指導、活躍の場。こちらが他のクラスのものよりも大きく伸びております。20人以上の単級。こちらはこれといって特徴は見られませんでした。全体のグラフと大体同じような傾向が見られます。2学級のグラフ、同じように多様性が多く、そして、その他が20から30%程というふうにそれ程高くない、どれかが飛びぬけて多くなっているというわけではありませんでした。そして3学級です。こちらは多様性と選択の機会が大きく伸びています。4学級については、サンプルが少ないのでこちらについて分析は出来ないと判断しました。

これらから20人未満の単級は、個別指導、活躍の場が高い。おそらく小中学校時代にそういう経験をしてきたからこそ選んだのかなというふうに捉えました。また3学級も選択の機会を多く選んでいるのは、やはり人数が多いということは、それだけいろいろな活

動ができた、選択肢が多かったからこそ、大事だなというふうに捉えて選んだのではないかなどこちらで分析いたしました。

続いて、次の自由記述についてです。緑色の方が高校生の自由記述です。やはり二十歳の人たちと同じように、人数が多くて戸惑った。緊張した。なかなか友達作りが出来なかった。というようなものがありました。そして私が注目したのは、上から三つ目のコミュニケーションがとれない。知らない人と関われない。裏を返すとこれまでずっと知っている人としかひなかったという、小中と同じメンバーだったからと書いてありました。単級で過ごしてきた人だけかなと思ったら、2学級で過ごしてきた人も、何人か高校で一気に人数が増えて、戸惑ったと書いていました。

その次の問、「少子化が進む地域の教育についての、意見やアイデア」ということで、やはり少人数ならではの良さを書いている子たち、たくさんいました。中にはもっと楽しい授業をすればいいと思う。「ごめんなさい」というしかないですね。二十歳の方と高校生の方、どちらも部活についての記述が多いです。やはり部活というのは生徒たちにとって大きい存在なのだなというふうに感じました。そして設備面の部分については、仙北市外の生徒だったんですけども、学校の統合は通学に影響がある。バスの運営などしっかりする。と具体的な内容でした。そして、先ほどから話題になっているトイレをきれいにする。やはり気にする人はいるんだなど。その他のところ下二つですが、少人数で不便だとは思わない。むしろ、のびのびといろんなことを体験できた。というプラス面。人数が少なく部活の団体戦に出られなかったのが残念でした。やはり両方あるなど。これからの適正配置を考える上で大変貴重な意見だなと思いました。

「自分がいた小中学校の良かった部分」についてです。こちらも二十歳の方々と同じように、少人数の学校は仲が良かった。先生と気軽に話せた。といったものが多かったです。その他にも、習熟度別学習とか、先生が一つのクラスに2人いるというような学習形態について良かったと書いている方々もいました。その他は、行事、地域との交流というふうになっています。設備面、学校がきれいで新しい。洋式トイレがあるのが助かった。というふうはこちらが気にしているところも、やはり高校生も同じように感じているのだなということが分かりました。

そして最後、こちらは適正配置とは関係ないのですが、赤上副市長から是非高校生の人たちに聞いてほしいということで、A3の、問7の「将来地元どんな仕事があれば、就業し定住したいと思いますか」というものの一覧です。記述してもらいましたが、職業として一番多かったのが、1番最初に載っている公務員19人。理由としては、なくてはならない。地元を盛り上げたい。市役所で楽しいという仕事であると分かったから。という理由でした。そして2番目に多かったのが、緑の真ん中、医療系14人。少子高齢化が進んでいる中でということで、まさに今の仙北市にはこの仕事が必要なのだなとこれを見て感じました。そして白のIT系というところですけども、今GIGAスクールがすごい勢いで進んでおります。こちらも仙北市のこれからを考える上では、切っても切り離せない仕事になってくるだろうなと思います。3番目に多かったのが、黄色の上から二つ目、美容系です。1位から3位までを見てみると、それ程、高校生がいろんなアイデアをもって選んでいるというよりは、すごく堅実な考え方をしているんだなということが見て取れます。また、コロナ禍で、いろいろな職業体験ができなかったということも影響しているのではないかという意見もありました。その他にはそのページですと下の白い部分ですね、研究職、環境保護。こちらは専門的な職業です。外からの人が来てくれるという可能性もあります。裏にいきますと、水色の部分は施設と捉えました。ショッピングモール、公共の施設、大学、企業子会社。そして4番目に多かったのが、白い部分の真ん中あ

たり、安定した仕事つまり、給料面で安定していたら、そこに住むだろう。というふうに高校生は考えたようです。学んだことを活かせる仕事というのが下から四つ目にあるんですけど、理由として今のところ地元にはないから。という痛烈な意見を書いている人もいました。ということで、これが、生徒に聞いた「どのような仕事があったらいいですか」という内容です。

(須田教育長)

このアンケート結果につきまして、ご意見をお聞かせください。田口委員。

(田口委員)

特に意見というものはないのですけれども、感想でよろしいでしょうか。

大変ご苦勞様でした。短い期間でアンケート集約、非常に分かりやすく羅列していて、見やすいと思います。高校2年生というと17歳ですね。3、4歳の違いではそれほど、差異はないのかなと、ぱっと見ですけれども私は感じました。やはり二十歳もそうでしたけれども、多様性ということがどちらも飛びぬけて多くなっていますけれども、子どもたちの関心の高さといいますか、裏を返せば、個性や自分らしさをもっと学校で大事にしてほしいと。一律にあまり厳しさを求めず、ある程度の自由、自由記述の中に両親についてはあまり厳しくしないでほしいとかという記述がありましたけれども、そういう多様性を認めてほしいという中には、子どもらしさもあるのかなというような感触を受けました。もちろんLGBTQをはじめ、そういった観点での必要性というものもあろうかと思いません。差別のない学校をつくるというようなことにも繋がってくるのかなと、大事な視点ではないかなということもここで感じました。こうした子どもたちの思いと地域の思い、市民の思いを総合的に見て、教育方針等に盛り込んでいかなければいけないので、こうした声を貴重な声として、大事にしていただければと思います。

自由記述についても、子どもらしさといいますか、二十歳の子どもたちも関心は、やはり部活のことについてかなり触れているのが多いのかなという印象がありました。それだけ部活で子どもたちが育てられたということもあるのかなと、大きな教育的な意味があるのかなというふうに思いました。少子化で学校が小さくなること、地域の縮小化によって、部活がなくなる、チームが組めないことへの懸念も子どもたちの声からも見られますので、こうしたことへの対応も必要になってくるのかなということを感じた次第です。以上です。

(須田教育長)

橋本委員お願いします。

(橋本委員)

小さい学校の、弊害という言葉は適当でないのですけれども、部活が出来ないとか言われますけれども、部活動は、少人数の場合、他校と一緒にやって合同チームを作れば良いという感想を持っている高校生が結構いるなと思いました。そういう感じで、他校と交流の機会があれば、高校に行った時、お互いに知っている人の範囲が広がるのではないかなと思いますので、部活が出来ないというのはあまり前面に出すのはどうかなと感じました。それから、少人数で良かったことも書いてあるんですけど、そういう中で、やっぱり多様性を求めるということが多いということで、そこら辺のバランスをどう考えるかというのが、課題になるのではないかと感じます。以上です。

(須田教育長)

坂本委員お願いします。

(坂本委員)

このアンケートの実施に対して、大変お疲れ様でした。大変良くやっていただいたと思います。高校生の回答を見て、ふざけた気持ちで書いてないなど。真面目にしっかりと考

えて自分の将来、自分たちの地域のことも非常によく考えている回答だなという印象を受けました。来年には成人になる子どもたちですので、そういった時代の背景もあるのかなと思って見せていただきました。将来就きたい仕事が、安定志向なんだと感じまして、もう少し夢を持ってもいいんじゃないかなという気持ちと、それから、ここには地元にはやはりこうした仕事しかないということも現れている感じがいたしました。その中に社長になりたいという子が一人いるので、起業に関しても、やりたい仕事が無ければ作ればいい。というようなそういうチャレンジ精神も、これから必要だなと思いますので、起業も含めてキャリア教育を進めていかなければいけないのかなと思いました。ありがとうございました。

(須田教育長)

細川委員をお願いします。

(細川委員)

アンケート集計ありがとうございました。やはり部活のことがすごく書かれておりますけれども、どのスポーツでも、高校もそうですし、中学校もそうなんですけど、単独でやっているのが少ないぐらいです。ほぼ合同でチーム組んでいますので、子どもたちの環境は、とても良い環境の中で活動できるようになっています。私も子どもたち見て思うんですけれども、子どもが少なくなってきたというのが目に見えて分かる現状だと思います。職業欄とか見せていただいたんですけど、この世の中、今の若い子たちは、車にあまり興味ないというのが、なんか残念だなと個人的には思いました。以上です。ありがとうございました。

(須田教育長)

次、をお願いします。

(毛利学校適正配置準備室参事)

この後実施予定のアンケートの内容について説明をさせていただきます。

まずは、一番上に回答用紙（保護者用）と書いているものからです。前回との変更点を青で手書きしています。一番上、①性別の選択肢はなしにしました。下にいて、②問4は前回ありませんでしたが、1回目の検討委員会で今の学校について、みんなはどのような役割があると思っているのか聞いてみたらどうか。という意見を受けて、新しく設けました。教育以外の役割としては、防災の活動拠点、保護者どうしの交流の場所、地域住民どうしの交流場所、地域の伝統や文化を継承・発信していく、地域のシンボル、移住定住するための判断材料、地域の経済や活力の下支え、その他という選択肢です。以前はここに資料があったのですが、資料は別の紙に移しました。それは後ほど説明いたします。問5については、回答の仕方が分かりにくいという意見もありましたので、③回答方法を赤ではっきりと書きました。また、③のすぐ下の少人数の学校、多人数の学校のところに、（例）とか、「学年10人程度」というようなある程度幅を持たせるような表現にして、でも共通のイメージは持ってもらうところを変更しております。こちらの変更は、前回の定例会と検討委員会の意見を受けて変更しております。項目⑥ふるさとの良さを学習・実感するなら。これについては少人数、多人数どちらかに誘導にならないような項目であるということと、ヤマメ・サクラマスプロジェクトというものも関係した項目を設けようと思い、設置しました。⑧については、選択肢を増やすという表現が、明らかに多人数の学校への誘導であると思い、活発化という表現に変更しました。問6です。変更⑤課題解決力という力を新設しました。1回目の検討委員会を受けて、芸術創造というものを削除して新しくしました。こちらについては、鎌田信教授から今これも大事なことから、是非入れてほしいということで設置しました。続いて問7、3ヶ所変更があります。②柔

軟性。こちらは臨機応変でしたが、臨機応変というのが教育目標としては少し違和感があるということと言葉を変えました。⑥協働的な学び。こちらで鎌田信教授から、今文部科学省で大事にしている学びだから是非入れてほしいということでした。⑩SDGs教育。こちらは田口委員からSDGsに関する項目が欲しいということを受け、少し事務局としては、どこに入れようか考えたのですけれども、教育方針のところに設けさせていただきました。問8、②部活動を増やしました。アンケートの自由記述、高校生の自由記述にもありましたし、事務局内でもやはり部活動についてどう思っているのかを聞いた方がいい。また、先進事例視察の時の、教育委員会の方々からも、部活動ということに気になっている保護者の方はたくさんいたということを受けて、そちらに設けました。一番下の⑧は、8月の定例委員会で、一言アンケートの取扱いについて説明を入れた方がいいということで付けました。その他、フォント大きくしたり、字を赤くしたりというような細かい変更もありますが、そちらはここでは説明しません。

続いて、小中学生用です。こちらと同じく性別は外しています。問2の⑫せんぼく校。これは、すっかり忘れていましたので、追加しました。そして、②先ほど説明した大人用の変更に伴って、子ども用も課題解決が増えました。大人用で部活動について聞いているので、子どもにも⑭の部活動・スポ少という欄を設けました。スポ少は正確にいうと学校の活動ではないのですが、子どもが、小学生時代に頑張りたいことという意味で設置しています。問4です。④協働的な学び。こちらで大人用と同様に変更です。そして⑤の幅広い選択というのは、選択の機会という内容から幅広い選択というふうに変えています。小中学生用は以上です。

(須田教育長)

まず、ここまでにします。

細川委員何かありましたらお願いします。

(細川委員)

はい。分かりやすい内容で、私はこれで良いのかなと思います。難儀されたと思いますけれども、引き続きよろしくお願いします。

(須田教育長)

坂本委員お願いします。

(坂本委員)

はい。性別のところは、前回教育長がおっしゃっていたんですけれども、カットでよろしいんですね。異議ありません。

(須田教育長)

検討委員会でも必要ないとのことでした。橋本委員お願いします。

(橋本委員)

検討委員会で検討されたものだと思いますけれども、一つだけ問6です。前は芸術創造という項目があったんですけれども、私はこれも捨てがたいなど。検討委員会ではそちら辺の話し合いはありましたか。

(毛利学校適正配置準備室参事)

芸術創造のカットについては、これ以上選択肢を増やせないというところもありまして、どれと交換しようかなと考え、芸術創造と変えたという経緯です。

(橋本委員)

はい。

(須田教育長)

田口委員お願いします。

(田口委員)

検討に検討を重ねて、様々な意見に対応した形で、更に検討を重ねた結果の回答用紙、質問内容だと思いますので、当初よりも大分洗練されたという印象があります。これで結構だと思います。ありがとうございました。

(須田教育長)

最後をお願いします。

(毛利学校適正配置準備室参事)

回答用紙市民用は、全く保護者用と一緒になので、次の表紙です。大きく太文字で「目指すべき教育の姿と学校のあり方」と書いているのですが、こちら前は「将来の仙北市の小中学校のあり方」というタイトルだったのですけれども、第1回の検討委員会で、学校のあり方と言われてもちょっと分からないな。難しいと思う。という意見を受けまして、「目指すべき教育の姿と学校のあり方」と少し詳しくしたタイトルに変えました。そして、このA3の紙を開くと中に資料がたくさんあるのですが、この資料をちゃんと見ていない人もいるだろうし、一般の市民の方々に、保護者でない方はもらっていないから、是非、今の仙北市の現状を資料として配布した方がいいという意見を受けまして、このように入れています。大体は意見交換会で説明した内容と同じものなのですが、児童数の推移、生徒数の推移というのが、全校の人数と学年の人数を載せてくれるとイメージしやすい。分かりやすい。という意見を受けて、このように変更しています。この資料と先ほど説明した回答用紙二つを、保護者と無作為抽出した一般市民の方々に配布しようと思っています。その他、子ども用、市民用もありますが、内容については、同じ、もしくは変更なし。となっておりますのでよろしくお願いします。以上です。

(若松学校適正配置準備室長)

予定としましては、このアンケート用紙の配布ですけれども、10月7日に配布予定で考えております。ここに記載してありますとおり、大人の分については、20日までにご返送下さいと。子どもたちについては、学校の中で、授業といいますか、中で取り組んでいただくということで、少し時間を持ちまして、26日までとしております。

(須田教育長)

よろしいですか。最後に何かありますか。

(田口委員)

もう印刷はされているんですね。

(毛利学校適正配置準備室参事)

印刷はまだです。

(田口委員)

小さいことなんですけれども、この見開き、開いたページ。よく精選された資料がまとまっていますが、こうして縦で見た時に、なぜこの資料だけが横なのか。他が全部、縦に見やすくなっているのに、これも縦にできないのかなど。

(毛利学校適正配置準備室参事)

文字が、たくさんあって、これを同じ向きにしまうと、すごく見づらくなってしまったので、少しでも見やすくということで、大きくしました。

(田口委員)

縦と横の字数を変えれば縦になるのかなど、簡単に思ってしまった私が間違いでした。検討した結果ということで、承知しました。

(須田教育長)

他、よろしいですか。

(橋本委員)

児童生徒数の推移を載せていただいて、すごく分かりやすい資料で大変良かったと思います。ありがとうございます。

(須田教育長)

相当子どもも時間を使ってやってみましたけれども、一番良かったのは、初めての人に何回もアンケートやってもらって、ここが分かりにくい、ここが分かりやすいと言われたことが良かったと思います。

その他ということで何かありますか。

(若松学校適正配置準備室長)

その他のその他ということで、情報提供となりますけれども、適正配置に関係した動きとしまして、10月21日に市のPTA連合会というのがありまして、PTA連合会の役員会があります。役員というのは、各小中学校の会長さんたちの集まりということになりますが、その会に10分程、時間をいただくことになりまして、その中で検討委員会を設置したということですか、あるいは、今後の大きな進め方等、今年度中に方針を策定すること、計画は8年度までというスケジュール的なお話。今後PTAの機会にこちらの方でお邪魔して、説明の場をいただきたいというお願いと、その他を10分程度でお話したいなと思っているところです。それから、10月26日ですけれども、白岩小学校のPTAと、白岩小百合保育園の保護者会が合同で、自主的に意見交換会を行うということで、そちらの方に出席いただきたいと事務局の方に、相談とお願いがありました。そういった会が行われます。あと未確定ですけれども、桜木内の小学校、こども園の方でも同様の相談は受けたところです。まだ決まっていませんがそのような相談されているようです。以上です。

(須田教育長)

他にありませんか。

(田口委員)

給食センター長に伺いたいんですけれども、値上がりがすごいじゃないですか。食材、油・様々な材料とか、食に関するものについて、値上がりかひどくて。給食費等の値上がりとか、今後の対応というもの何かあるんですか。

(草薨総合給食センター所長)

今年度の値上がりがすごいんですけれども、保護者負担をこれ以上増やすことは考えていなくて、なぜそれを考えなくても給食提供が出来ているかという、国の臨時交付金を、食材の高騰部分に当ててもいいという通知をいただいております。これから12月補正以降になるのですけれども、今値上がりがどれくらいなのかを日々計算してまして、これを補正対応で、市にお願いしていくという形をとりたいと思っているところです。

(田口委員)

値上がりが、子どもたちの給食の質の低下につながりかねないと、ちょっと危惧したんですけれども、今聞いて安心しました。ありがとうございます。

(須田教育長)

来年度も所長とは、まず値上がり分は交付金からもらおうという話はしているところです。ただ交付金がきている間はいいのですけれども、こなくなった時にはどうなのかなど。多分それは仙北市だけでなく、全国的な動きになるような気がしますけれども、このコロナの交付金で対応している市町村が多いという話を聞いております。

次、生涯学習課からの報告をお願いします。

(武藤生涯学習課長)

私の主張という弁論大会ですけれども、これの県南地区大会についてご報告いたします。県南地区大会というのは、県南の4市、湯沢、横手、大仙、仙北と美郷がありまして、4年ぶりに仙北市で今年度の県南大会は開催されました。期日は8月30日、会場は仙北市民会館でした。関係者の他、生保内中学校の全生徒を会場に招いて、発表を聞いてもらいました。発表は県南地区の九つの学校から、計13人の応募がありまして、それを書類審査で10人選んで、10人に発表してもらいました。10人の内4人が優秀賞、6人が優良賞となって、優秀賞の4人が、全県大会に推薦されるというものです。4人の内、仙北市内からは、神代中学校から1人、西明寺中学校から1人選ばれて、全県大会に進んでおります。以上です。

(鈴木教育次長兼学校教育課長)

9月の中旬に秋田市土崎中で全県大会ありました。見事、神代中の高田さんが最優秀ということで、全国大会等への推薦ということで、この後、生涯学習課が中心となってビデオ撮影しまして、ビデオ審査で全国審査になるということでした。西明寺中も優秀賞を取ったということで、大変素晴らしい大会結果となりました。以上です。

(須田教育長)

その他、よろしいでしょうか。

(佐々木次長兼角館公民館長)

角館公民館の佐々木です。旧東小学校、東地区公民館の今後の在り方について、担当部署、教育委員会で今検討しているところでございまして、現状ということで、概要を報告させていただきたいと思っております。

角館東地区公民館、及び体育館は旧東小学校から施設を引継ぎまして、延べ43年が経過しております。平成26年に耐震診断を実施した結果、旧校舎、体育館が強度不足となっております。仙北市の個別施設計画では、まず利用者の安心安全、これを重視しまして旧校舎部分を閉鎖、体育館のみ改修して利用していくこととしておりました。しかしながら、この耐震改修工事に係る費用が、概算で1億円を超えることや、近年体育館の利用者数が減っていること、また将来的にみますと、小中学校の統廃合による空き体育館の増加、こういうことが考えられまして、旧校舎だけでなく、体育館も閉鎖の方向へと変えたところでございました。また、閉鎖につきましては、現在利用している個人や団体に対しまして、代替施設の提供など必要でございますが、陶芸や樺染めサークルなど専用施設を必要とする団体につきましては、受け入れ施設の選定及び所管課との交渉が難航しておりまして、重要な課題となっているところでございます。現時点での報告は以上です。よろしく願いいたします。

(須田教育長)

長時間にわたってありがとうございました。

これで、令和4年第14回仙北市教育委員会定例会を終わります。ご苦労様でした。

(閉会宣言：午後3時35分)